

二戸を彩る折爪岳

市民の生活に寄り添ってきた折爪岳。標高852.2メートルと、決して高くはありませんが、周りに高い山がないからか、その姿は強い存在感を感じます。折爪岳はその数100万匹ともいわれるヒメボタルの生息地として知られ、今年4月には「折爪岳のヒメボタル生息地」が県の天然記念物に指定されました。市内から30分ほどの道のりで、日ごろ見るこの美しい眺望が目の前に広がるのも折爪岳ならでは。晴れた日には山頂から八戸の市街地、海やイカ釣り漁船の漁火が見え、その反対の遠方には八甲田連峰、八幡平連峰をはじめとした岩手山や姫神山も眺めることができます。

また、山頂周辺には「自然公園センター」、「山の家」、「キャンプ場・オートキャンプ場」があり、毎年ゴールデンウィークのころから、休日になると家族や友人とキャンプ場でにぎやかに過ごす姿が見られます。

折爪岳といえば湧き水が豊富なことでも知られています。通年を通して豊かな水量が山頂付近で湧いていきます。その水を求めて地元市民はもちろん、八戸方面や盛岡方面からも足を運ぶ方は後を絶ちません。その水の恩恵は、南部美人や折爪三元豚、雑穀など二戸の誇るブランドを生み出しています。今月号では、二戸の歴史と文化を見守ってきた折爪岳を紹介していきます。

市民に愛されるふるさとの山

「南部美人」純米大吟醸・あわさけスパークリング

2部門で日本一の快挙！



左から戸館弘幸岩手県商工労働部長、達増拓也岩手県知事、久慈浩介南部美人社長、藤原淳二戸市長

国内の市販酒ナンバーワンを決める「サケ コンペディション 2018」は6月11日、東京都内のホテルで開かれ、南部美人（久慈浩介社長）が、2部門で1位に輝きました。昨年、同社の「南部美人 特別純米」が世界的なワイン品評会、インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）で日本酒部門の最優秀賞「チャンピオン・サケ」に選ばれたことに続く快挙です。

品評会には、国内外から455の酒蔵が参加し、1772点の自慢の日本酒が出品されました。純米大吟醸部門には445点が出品され、「南部美人 純米大吟醸」が1位に。スパークリング部門は74点が出品され、「南部美人 あわさけスパークリング」が2年連続の1位に輝きました。

久慈社長は7月6日、藤原淳二戸市長と岩手県庁を表彰訪問し、達増拓也岩手県知事と戸館弘幸岩手県商工労働部長に受賞を報告しました。久慈社長は「あわさけスパークリングは現代の最新技術と理論で造る『革新の酒』、純米大吟醸は日本の蔵が最も力を入れて造る渾身の『伝統の酒』です。この『革新』と『伝統』が融合することが『進化』と考えています。二戸の酒を世界に発信していきたい」と喜びを語りました。

広報にのへ 8月1日号 CONTENTS -目次-

- 01 福岡三葉ク東北制し、全国へ！
- 02 「南部美人」2部門で日本一の快挙
- 03 特集 折爪岳
- 10 おいでよ！八戸・久慈
- 12 にのへトピックス
- 15 News & Information
- 18 栄養とって夏バテ知らずな体に
- 19 きらり！明日の風
- 20 下堀 樹里さん
- 21 ぼっさいナビ
- 22 こしゃーる、図書館情報
- 23 小さな美術館、にのへの先人
- 24 こみゆに「おたいむ
- 優勝 慶弔、休日当番医など
- 県中総体 福岡中学校が2競技で



亀磨くん イラスト：きり光乗

折爪岳を知る

昔から住民の心のよりどころとなっている折爪岳。その歴史と水が豊富であるという特徴を探ります。



元山居神社の祠

折爪岳の歴史

折爪岳は、戦前から地元の住民に神聖な山として崇められています。

雨が降らない日が続くと、雨ごいをするために山頂までお参りにいきました。その雨ごい方法は独特で、神様である権現様の頭を山頂にある山居の池に投げ込み、権現様を怒らせることで雨が降るように祈願したという記録が残っています。ほかにも、病人には折爪岳の水を飲ませて体調の回復を図るなど、山麓の住民の心のよりどころとなっています。

第二次世界大戦後は、立地的な条件から山頂にアメリカ軍の無線中継所が建てられ活用されてきました。現在では、その中継所は廃止されていますが、その後、テレビ局やラジオ局の中継放送塔やマイクロウェーブなども併せて建設され、今のような山頂の様子が形作られました。また、市民の利用も増え、山開きには多くの人で賑わいを見せました。

近年では、東北最大級のヒメボタルの生息地として広く知られるようになり、東京や大阪など日本全国からヒメボタルを見るために多くの人が訪れています。ほかにも山頂で見られる360度の大パノラマを生かした星空観察会や、九戸側では急な斜面を生かし、パラグライダー体験会を開催するなどのアクティビティを体験できる場所としても活用され、山麓の人たち以外にも広く親しまれています。

水が豊富な理由

折爪岳の特徴の一つとして「水」が多く湧き出ることが挙げられます。なぜ山頂にもかかわらず湧き水が豊富なのでしょうか。

一つ目の理由として岩手県特有の気候「やませ」があります。やませは、春から夏(6月~8月にかけて)に吹く、



大きく育った広葉樹

冷たい東よりの風を指し、寒流の親潮の上を吹き渡ってくるため、冷涼で霧がかかったような風が吹きます。

折爪岳の周りにはさえぎる山がなく、八戸方面から吹いたやませが折爪岳にぶつかり霧や雨となって山頂付近に降るため、夏でも多くの水が蓄えられます。

二つ目は、山頂付近の植生です。ブナやミズナラの林が点在し、山頂に降った大量の雨水を蓄える環境が整っています。そのため、地中を通り抜け、丁寧にろ過され、きれいに澄んだ湧き水が地表へと湧き出しています。

最後は地質です。湧き水の多くは地中を通り中腹より下で湧き出るので、折爪岳では山頂でも水が湧き出ます。この理由に関しては要因がはっきりと解明されていませんが、地表付近に固く古い地層が存在し、地中深くまで水がしみこまないために山頂でも水が湧き出ると考えられています。



ホタルブクロ



ヤマアジサイに止まるヨツシハナカミキリ



ヤマオダマキ

折爪岳の貴重な動植物

折爪岳は石灰岩地質と豊富な湧き水に恵まれていることから、低地にも関わらず珍しい植生を見ることができるほか、多くの自然が残る宝の山です。



チシオタケ



ウスバシロチョウ



コエツゼミ



闇夜にひっそりと光るツキヨタケ



ヒメボタルの蛹



ヒメボタルの成虫 (左オス、右メス)

岩手県教育委員会告示第4号

岩手県文化財保護条例（昭和51年岩手県条例第44号）第37条第1項の規定に基づき、次のとおり岩手県指定天然記念物を指定する。

平成30年4月13日

岩手県教育委員会
教育長 高橋 嘉行

指定番号	種別	名称	員数	所有者
天第36号	動物	折爪岳のヒメボタル生息地	1件	岩手県、二戸市、九戸郡軽米町、江刺家財産区（九戸郡九戸村）

自然の宝庫を守る

平成30年4月13日に「折爪岳のヒメボタル生息地」が岩手県天然記念物の指定を受けました。ヒメボタルの特徴と、今後も守っていくためには何が求められているか課題を探ります。

ヒメボタルの特徴

折爪岳は東北最大級のヒメボタル生息地で、その数は100万匹とも言われており、最近の調査結果によりその数が確認されています。

ヒメボタルは、夜行性で、一般的なゲンジボタルやヘイケボタルと違い、生涯を陸上で過ごす陸生ホタルです。ヒメボタルは湿った環境を好み、日中は腐葉土の間などに隠れています。卵から孵化した幼虫は1〜2年程度地中で過ごすといわれ、成虫になると、子孫を残して1〜2週間の命を全うします。日本在来種のホタルであり、レッドデータブックにも登録されていることから、優れた自然環境の指標にもなっています。エサは小さなカタツムリのような貝、オカチヨウジガイや、ミミズなどを食べて成長します。

ゲンジボタルが14〜18ミリなのに対し、ヒメボタルのオスの体長は約9ミリ、メスは7ミリと、比べたときとても小さい

ホタルであるということが分かります。オスは飛ぶことができますが、メスは羽が退化しており飛ぶことができません。陸生ホタルの多くは光らない種類の方が圧倒的に多いのですが、ヒメボタルははっきりとした区切りの良い光り方をし、オスのほうがメスよりも早く強い光り方をします。幼虫や蛹も腹部が光ります。

ヒメボタルの成虫が光り始めるのは7月上旬から、7月下旬ごろまでです。光り始める時間は日没ごろから光り出し、活発に光るのは午後8時ころから、10時くらいまでです。光る時間帯は、地域によって異なることが確認されており、西日本などでは観賞できる時間は深夜0時ごろがほとんどです。

それに対して折爪岳のヒメボタルは人が見やすい時間帯に光るため子どもでも観賞しやすいのも特徴です。

折爪岳を通じ二戸の宝を守る

ヒメボタルは、メスが飛ぶことができないために移動する力が弱く、環境に左右されやすい生き物です。

折爪岳は戦後まもなく高度経済成長の波とともに林業の山としても活用されてきました。中には針葉樹が多く植えられ、植生が変わってしまったところも存在します。過去にヒメボタルの生息していたであろう区域も広葉樹が切り倒されました。その後、折爪岳が地域の宝と認知されてからは、地元住民が積極的に活動し、市や県と協力しながら現在の環境を守ってきました。

折爪岳には「までも」、多くの広葉樹林が残っており、エサとなるオカチヨウジガイなどが生息する腐葉土を多く含む土地です。ヒメボタルは、貴重な自然林が残っているからこそ多く見られる生き物といえるでしょう。

また、これまで自生していた

種類の林を残すことはヒメボタルだけを守るためではありません。折爪岳の湧き水が、枯れることなく湧き続けるのも、湿潤な土地にしか見られない動植物が当たり前のようによく存在しているのも、緑豊かな折爪岳の森があるからこそです。

ですが、今、地元の地域団体の高齢化という大きな課題に直面しています。長年地元で活躍してきた団体も現在後継者が不足し以前のように精力的に活動することが難しくなってきました。

折爪岳の水が、二戸のおいしいお米やお酒、食肉、果物を育ててきました。まさに折爪岳は二戸の文化を作り上げてきたといっても過言ではないでしょう。そんな山を後世に残していくためには、二戸の宝として市民、行政、地元企業が一体となって、折爪岳に寄り添いながら守っていく必要があります。

折爪岳を未来へつなぐ

～プロフェッショナルからのメッセージ～

植物、動物、ホタル、そして山。折爪岳の価値を知る4名の有識者から、将来に向け、折爪岳を守っていくためのヒントとメッセージを紹介します。

動植物を守る知恵を

ヒメボタルを守るだけでなく「種の保存法」があります。今回、県の天然記念物に指定するのは、「地域の歴史・生活との関わりで重要」という意味が含まれているからです。

現在の折爪岳は森に覆われていますが、その多くは植林されたものです。山頂部のカラマツやトウヒなどの針葉樹林が衰えたところに、周りからミズナラなどの広葉樹が入り込んでいます。ミズナラは、かつて薪や木炭の材料として繰り返し伐られては再生した林の生き残りであり、

ブナよりも攪乱に強い性質があります。ヒメボタルはブナと結びつけて語られがちですが、実はミズナラに多いことが分かっています。つまり、人による土地利用の変化によってミズナラが増え、ヒメボタルも生き残ったとも言えるでしょう。

風の強い折爪岳の周辺では風力発電所計画が進んでいます。森は風を遮り、ヒメボタルたちを育ててきました。今私たちに山を上手に利用しながらヒメボタルを守っていく知恵が求められています。



地域団体「えのみの会」
和山 耕也 さん
地域団体「えのみの会」で長年にわたり、坂本地区や折爪岳を舞台に活動を続けてきた。幼少から折爪岳の麓で育ってきたため、折爪岳の近年の移り変わりを深く知っている。

折爪岳の宝を磨いてほしい

子どもたちから、ふるさと山である折爪岳を誇りに思い暮らしてきました。

昔は遊歩道にも多くのごみが落ちていて、悲しい気持ちになることもありました。きれいにしようと努力を続けた結果、今では観光客のマナーも向上し、すっかりごみは見られなくなりま

した。それほど山に対する意識が数年で大きく変化していることを感じています。ヒメボタルは、年々増えてきていると感じており、管理も以前より良くなっていますので、このまま

保ってほしいと思っています。

折爪岳にはある宝はヒメボタルだけではなく、植物や動物などたくさん宝があります。年間を通して多くの人が訪れ、楽しく過ごしてもらうため、手すりや看板を整備するなどの工夫も必要になってきます。

将来の子どもたちにもずっとヒメボタルを見せてあげたい。今回の天然記念物指定を機に、みんなで協力し、見る環境と保護の両立を図りながら、これからも折爪岳の宝を磨いてほしいと思います。



岩手県立大学名誉教授
平塚 明 さん
東北大学理学部助手を務めた後、平成10年から岩手県立大学総合政策学部助教授、平成16年からは同学部の教授として今年3月まで教鞭を執った。平成26年から県文化財保護審議会委員

ヒメボタルの謎を解く一歩

この度、折爪岳のヒメボタルが県の天然記念物に指定のとこと、永年にわたる市民の皆様への保護運動の素晴らしい成果と存じます。おめでとうございます。

県境にそびえる折爪岳は、山居の泉をはじめとする水資源、山頂を包むブナ林の豊かな植生にも恵まれて、100万匹といわれるヒメボタルをはじめとする多様な陸生ホタル、ゲンジボタル、ハイケボタルなど水生のホタル合計7種が生息し、まさに本土産ホタルの宝庫ともなっています。

しかし、これらの保護や保全の基礎となる種別の生態となりますと、まだまだ多くの謎に包まれています。

折爪岳には自然体験学習のための立派な設備があり、地形も穏やかな起伏で、学習活動には安全な環境です。このような恵まれた条件を生かして、この度の天然記念物指定をきっかけに、ヒメボタルの生態の解明にとり組む体制づくりが、二戸市といわず岩手県においても、強力に進みますよう心からお祈りいたします。



伊達生物調査事務所 所長
伊達 功 さん
盛岡市のコンサルタント会社で環境調査などに従事。その後、独立し伊達生物調査事務所を立ち上げる。県内に拠点を置きその調査は昆虫に限らず鳥類なども含め幅広く調査。稲庭岳や、折爪岳の生物調査も行う。

虫の記録に山の歴史あり

折爪岳は、昆虫の調査が進んだ山です。市内で長年教職にあつた奥昭夫先生が、弟の奥俊夫博士と共に幅広い昆虫相を調査し、立派な報告書にまとめられています。

奥俊夫博士によれば、子どもころに登った山頂には、広い草原で馬が遊んでいたそうです。折爪岳の土地利用や植生は、今では想像もつかないほど変化しています。

昆虫の記録を見ると、その変化がわかります。草原性の種は減少し、森林性の種にも伐採な

どの影響が見られます。昆虫を記録することは、山の歴史を記録することにもなるのです。

二戸市の東西に鎮座する折爪岳と稲庭岳では、昆虫相に違いがあります。稲庭岳には奥羽山脈特有の多雪地性の種が生息しています。折爪岳にこれらは生息せず、代わりに北上高地固有の種がいます。ヒメボタルは両方にいますが、稲庭岳には少なく、折爪岳の比ではありませぬ。この違いの原因は何か、興味深い課題がまだまだたくさんあります。

あとがき

折爪岳を知れば知るほど、生活のどこかに折爪岳が育んだ恵みが無数に存在していることに気が付きます。

その恵みは市民だけではなく全国さらには世界へ、あらゆるものを通じて二戸で生まれたものを待ってくれている人たちの元へと届きます。地元に住んでいる人たちは、当たり前過ぎて、生活の一部となっている折爪岳を意識する機会が少ないのかもしれない。

折爪岳にほんの少し目を向け、山に眠る新たな宝が見つけてみませんか。そして母なる折爪岳を守り、後世に残していきたいですね。



一つの呼びかけで皆さんの意識が変わります



陸生ホタル生態研究会事務局長
小俣 軍平 さん
教職員を長年務め定年を機に退職。教師時代からホタルに関して研究を続けており、現在は「陸生ホタル生態研究会」事務局長を務める。全国に調査フィールドを持ち、折爪岳も長年にわたって調査を続けている。